

九州地区大学体育連合／九州体育・スポーツ学会合同企画

「教養体育」授業担当資格の認定に向けて

【話題提案者】 熊本大学名誉教授 則元志郎
【企画・司会】 九州地区大学体育連合 顧問 則元志郎
九州体育・スポーツ学会 大会企画委員長 斉藤篤司

趣旨

大学教員の主な仕事は、教育と研究であることは言うまでもない。教育に関しては、大きく「専門教育」（学部・学科等）と「教養体育」（一般体育、共通教育等）を担当している。

そして多くの教員は、各自の専門研究の実績で採用されたり、昇格したりしている。「専門教育」に関しては、各々の研究実績が「授業担当資格」に大きく関わる。

しかし、「教養体育」の授業担当資格を問われた時、その証明に値するものを持っている教員は少ない。

特に最近では、心身の健康・運動技能・運動文化などの指導等だけでなく、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーに対応した指導内容や方法、汎用的スキル（コミュニケーションスキル、社会的スキル等）を獲得させる指導力が求められている。

そこで、「教養体育」授業担当資格を大学体育に関して研究・研修している機関・組織（九州地区大学体育連合）において認定する方向で検討していきたい。

（「九州体育・スポーツ学会第68回大会プログラム」より）

踏まえて教員採用が行われているが、教養教育における教育能力等については、あまり問われることがない。その一方で、教養教育の理念や目的の現代化に伴い、教養教育授業担当者に求められる能力等も、多様化・高度化している」という現状を踏まえ、公的団体等が公認する資格を作る必要がある、ということが主張された。このような資格の認定は、大学体育教員を目指す若手研究者のメリットになり（例えば、履歴書等に記載することができる）、また、中堅・ベテラン教員にとっても自己研鑽につながるものが期待される、とも述べられた。

これらの提案の後、質疑応答および意見交換が行われた。複数の参加者から、資格の制定に賛同する意見が述べられたが、認定の仕方や資格の質の担保等（提案では、「認定委員」による、研修会での研究発表や模擬授業に対する審査が必要とされている）、クリアすべき課題が多数あり、必要性は理解できるものの、慎重に検討すべきとの意見も出された。九州地区大学体育連合としては、今後も、調査や議論を進め、課題を整理した上で、実現の可能性を探ることとなった。

（文責：杉山佳生）

報告

本企画は、2019年9月1日（日）12時20分～13時20分に、鹿児島大学郡元キャンパス・共通教育2号館211号講義室で開催された。従来より、本合同企画では、実技研修を行ってきたが、今回は、ラウンドテーブル形式で実施された。20名弱の参加者が、ロの字型に配置された机に着き、また、周辺席に座った。

まず、話題提案者（九州地区大学体育連合前会長）より、企画の趣旨説明が行われた。その内容は、「教養体育」の授業を担当する教員の資格認定を行うことが期待され、九州地区大学体育連合がその母体となることが望ましい、というものであった。説明では、「学部等では、専門科目にかかる研究業績や教育経験等を